

がん診療センター9月完成

放射線治療可能 施設の一部開放も

製鉄記念室蘭病院

製鉄記念室蘭病院（室蘭市知利別町）が今春から建設を進めている「がん診療センター」が9月中旬に完成する。今月から内装工事に入っており、放射線治療ができるようになるほか、患者以外にも建物の一部を開放するのが特徴だ。

（相沢宏）

センターは中央診療棟隣に建設。鉄筋コンクリート造り4階建て、延べ面積2744平方メートル。総事業費約15億円。内装のデザインは同病院と医工連携を進める室蘭工大が担当、患者に圧迫感を与えないよう、壁は淡い紫や黄色を基調とする。

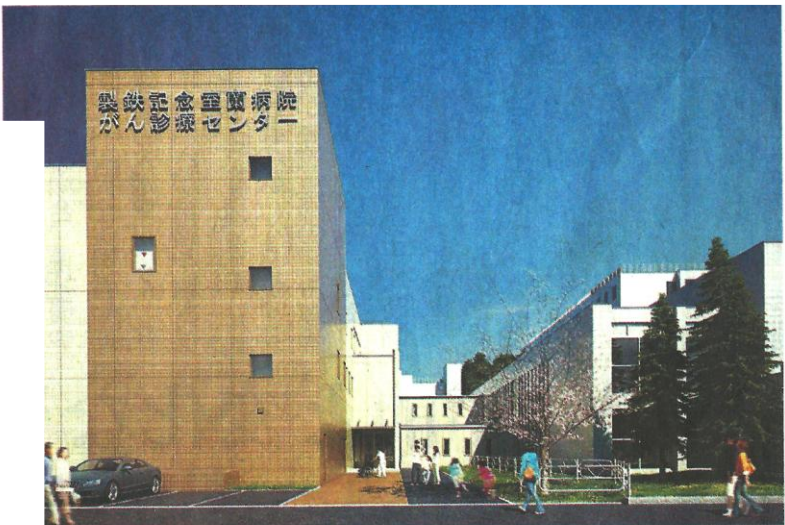
1階には放射線治療器、PET（陽電子放射装置）とCT（コンピュータ断層撮影装置）を組み合わせた検査機器「PET-CT」を導入する。

2、3階は患者以外でも利用できる施設も設ける。2階には喫茶室のほか、院外貸し出しもできる医療図

書室を設け、一般向けの医療関連図書を並べる。当初は200〜300冊で、将来的に千冊程度に増やしたい考え。貸し出しは無料。

3階の会議室（3室計約300平方メートル）は通常、院内会議や市民公開講座などに用いる。屋上に非常用発電機を備え、災害時には会議室を近隣住民の避難所として使う。4階は機械室。

同病院は「がん診療の充実を図るとともに、地域住民に役立つ施設にしたい」と話している。



がん診療センターの完成予想図（製鉄記念室蘭病院提供）